

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立錦糸小学校
校長名	高山 幸

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・34 観点中 31 観点において目標値を上回り、6 年生以外は、全ての観点で 5 p 以上上回った。6 年生も 3 観点で 5 p 以上上回り、また、目標値以下の 3 観点についても、僅かな差である。各学年において基礎学力の定着が見られる。 ・昨年度と比較し、理科と英語において、全学年全観点が目標値以上であったことは、日々の学習の積み重ねの成果と考える。	・国語の「文章を書く」の設問においては、目標値に届かなかった学年は無回答率が 20%以上となり、目標値を超えている学年でさえも、無回答率が 10%以上の学年もあることから、作文を苦手とする児童への支援を工夫していく。また、知識の教え込みだけではなく、児童の思考の流れを意識した、発展的・探究的な授業を目指した授業改善(裏面記載)にも取り組む。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「授業中グループで話し合う時間がある」の項目では 90%近くの児童が肯定しており、全学年級が授業の展開に話し合いの時間を設定しており、児童も意識していることが分かる。また、「話し合う時間が楽しい」の項目で、80%以上の児童が肯定していることは、数年にわたり、探究的な活動を重視した授業に取り組んできた成果だと考える。	・全学年、話し合う時間があり、話し合いは楽しいと感じている反面、「積極的な発言」の項目では 50～80%と学年差が見られる。また、「発言や発表に対しての質問」の項目では肯定する児童が 50%程度であることから、発言に対して苦手意識をもつ児童が多いことが分かる。意図的な指名により賞賛することで、自信をもたせ自己肯定感につなげる。また、校内研究を通して、対話を通した学習の深まりも追究する。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・生活科・総合的な学習の時間を中心に、体験的な活動や探究的・問題解決的な学習を計画的に実施したことで、意欲や気付きが増える等、問題解決能力が挙がってきている。 ・タブレット端末(学習アプリ)を活用した家庭学習に意欲的に取り組む児童が多くなった。	・自分の意見に自信がもてず、表現することに抵抗を示す児童がどの学年にも一定数いる。発表方法(タブレット端末活用等)を工夫することで、抵抗感をなくし成功体験を積み重ねさせる。 ・学習準備や家庭学習への取組に個人差が大きい。保護者と連携を図りながら、学習準備、放課後補習や個別指導を継続して行う

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 全教科・領域における、自分の考えを書いたり表現したりする活動を取り入れた授業づくり

学習問題・学習課題を自力解決する場面や検証結果から考察する場面、振り返りにおいて自分の考えや分かったことを書く場面を適宜設定し、文章で表現する力を伸ばす。また、書いたことを発表につなげることで、児童が自分の考えに自信をもち、自己肯定感へとつなげる。国語を中心に、要約したり、自分の感想や意見を表現したりする力を養う。また、「書く」活動を通して、各学年における漢字の「読み・書き・使い方」も習得・定着できるよう指導を継続する。

(2) 全教科・領域における、探究的・課題解決的な学習の展開

生活科の指導教諭を中心に、教師が一方的に教えたり、学習活動を与えたりするのではなく、児童の気付きや疑問、体験的な活動を大切に、それを基にした探究的、課題解決的な学習活動を児童とともに創り上げていく。更に、学習活動を進める際に、児童が他者と協働して、直面する課題を解決していけるように、授業の改善に努める。

(3) 理科における、児童の思考の流れを意識した授業改善

教師主導で教科書の内容を教え込むのではなく、次のような学習の流れを大切にする。

- ① 単元の導入時に、学習につながる興味や意欲を高める工夫
- ② 児童の気付き、疑問から学習課題を設定
- ③ 学習課題に対して根拠をもった結果予想
- ④ 児童の考えた予想の検証方法の検討
- ⑤ 実験や観察等を通しての検証
- ⑥ 検証結果から課題について分かることの考察
- ⑦ 用語や知識の定着を図るためのまとめ

これら、児童の予想・仮説を基にした実験・観察を通して、理科の思考力を高める。また、単元の終わりに日常生活にフィードバックしたり、タブレットドリルやふりかえりシートを活用したりすることで、既習内容（知識・技能）の定着をさらに図る。

(4) 組織の活性化と学力向上委員会を中心とした指導力の向上、個人差に応じた取組の強化

- ① 令和8年1～3月に、タブレット型端末・ふりかえりシート等を活用しながら当該学年の振り返り学習を全学年で実施し、学習内容を定着させる。
- ② 学習状況調査結果（S-P表等）に基づいた前学年の復習を、夏季休業前に行う。
- ③ 各学年終了までに身に付けさせたい基礎学力について、共通認識の基で組織的に取り組む。
1学年：10の合成、繰り上がり、繰り下がり、ひらがな、カタカナ 2学年：かけ算九九
3学年：わり算、ローマ字 4学年：四則計算、都道府県
5・6学年：四則計算、アルファベット 各学年共通：学年配当漢字
- ④ タブレット型端末を用いた家庭学習、放課後学習や個別指導等の個人差に応じた指導を行う。
- ⑤ 計画的・継続的なOJT研修を実施し、教師の指導力を向上させる。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全ての教科・領域においてDE層の割合を5%程度減とし、AB層の割合を増やす。
- ・国語の記述式の問題に対し、無回答の児童を各学年5%程度減にする。